

2020 年度理事会、学術評議員会ならびに社員総会における報告承認決定事項

2020年5月21日～23日に滋賀県大津市にて開催が予定されていた第63回日本糖尿病学会年次学術集会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により開催を延期することとなった。これに伴い定例理事会、学術評議員会および定時社員総会についても開催日ならびに開催方法に大幅な変更が行われて実施されることとなった。

定例理事会は6月13日にWEBにより開催された。学術評議員会は一堂に会しての開催は行わず、各付議事項に対して「MyPage」から決議事項への賛否および会長選の投票を行った。6月23日～6月25日の3日間を回答期間とし、有効期間内における回答をもって今回の学術評議員会に出席したと見做すこととした。定時社員総会は6月27日にステーションコンファレンス東京で開催したが、「3密」を避けるため席と席の間隔を広く取るとともに、マスクの着用、体温測定、手指の消毒を必須とするとともに、来場者数を制限した。その代わりに期日前に各付議事項に対して「MyPage」から議決権の行使が行えるようにした。

1. 2019 年度事業報告および庶務報告

●事業報告

1. 第62回年次学術集会

会 長 山田祐一郎（秋田大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝・老年内科学）

会 期 2019年5月23日（木）～5月25日（土）

会 場 仙台国際センター、東北大学百周年記念会館川内萩ホール、仙台市民会館ほか

参加者 約 11,000 名

○会長講演

○学会賞受賞講演

ハーゲドーン賞：膵・腸管内分泌機能と糖尿病

リリー賞：アディポネクチン受容体を標的とした健康長寿に資する新規糖尿病治療薬の創製に向けた研究

細胞内栄養シグナルに着目した糖尿病ならびに糖尿病性腎症の病態解明

女性研究者賞：大規模コホートを基盤とした糖尿病・肥満症における心腎脳合併症の早期評価系と治療戦略の構築に関する研究

○会長特別企画 Featured symposium

全 22 題

○会長特別企画 Meet the Professor 全 4 題

○シンポジウム

糖尿病性腎症と糖尿病腎臓病 他 24 題

○教育講演

免疫チェックポイント阻害薬と1型糖尿病 他 25 題

○教育セミナー

○CDEJ 療養指導セミナー

○JDS/AASD/IDF-WPR 合同シンポジウム

○第2回若手研究助成金 成果報告会 9 題

○若手研究奨励賞 審査口演 15 題

○医療スタッフ優秀演題賞 審査口演 15 題

○一般演題 1,973 題（口演 642 題、デジタルポスター 1,331 題）

○AASD 135 題

○肝臓と糖尿病・代謝研究会 31 題

○キッズ医療体験セミナー

2. 第54回「糖尿病学の進歩」

世話人 古家大祐（金沢医科大学糖尿病・内分泌内科学）

会 期 2020年3月13日（金）～14日（土）での開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により開催日を2020年9月2日（水）～3日（木）に変更することとなり、次年度における開催となった。

会 場 石川県立音楽堂、ホテル日航金沢、ANAクラウンプラザホテル金沢、金沢市文化ホール

3. 地方会活動

1) 第53回日本糖尿病学会北海道地方会

会 期 2019年10月20日（日）

会 場 札幌プリンスホテル国際館パミール

会 長 三好秀明（北海道大学大学院医学研究院糖尿病・肥満病態治療学分野）

参加者 745 名

2) 第57回日本糖尿病学会東北地方会

会 期 2019年11月2日（土）

会 場 仙台国際センター

会 長 片桐秀樹（東北大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科学分野）

参加者 946 名

- 3) 第 57 回関東甲信越地方会
 会 期 2020 年 1 月 18 日 (土),
 「専門医更新のための指定講演」のみ 1
 月 19 日 (日) 開催
 会 場 パシフィコ横浜 会議センター
 会 長 佐倉宏 (東京女子医科大学東医療セン
 ター内科)
 参加者 2,932 名
- 4) 第 93 回日本糖尿病学会中部地方会
 会 期 2019 年 9 月 7 日 (土)・8 日 (日)
 会 場 フェニックス・プラザ
 会 長 此下忠志 (福井大学医学部附属病院内
 分泌代謝内科)
 参加者 約 800 名
- 5) 第 56 回日本糖尿病学会近畿地方会
 会 期 2019 年 11 月 9 日 (土)
 会 場 大阪国際会議場
 会 長 佐々木秀行 (和歌山県立医科大学みら
 い医療推進センターサテライト診療所
 本町)
 参加者 2,661 名
- 6) 第 57 回日本糖尿病学会中国・四国地方会
 会 期 2019 年 12 月 6 日 (金)・7 日 (土)
 会 場 あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)
 会 長 松久宗英 (徳島大学先端酵素学研究所
 糖尿病臨床・研究開発センター)
 参加者 1,041 名
- 7) 第 57 回日本糖尿病学会九州地方会
 会 期 2019 年 10 月 25 日 (金)・26 日 (土)
 会 場 佐賀市文化会館, アバンセ
 会 長 安西慶三 (佐賀大学医学部内科学講座
 肝臓・糖尿病・内分泌内科)
 参加者 1,896 名
4. 年次学術集会・糖尿病学の進歩・地方会の管理,
 運営
 本学会が主催する年次学術集会の運営を一元的に管
 理し, 財政負担を削減するために年次学術集会の運営
 に関して日本コンベンションサービスと長期契約を行
 い効率的な運用に努めている。また, 糖尿病学の進歩
 および各地方会においても準備状況を適宜報告して頂
 き学会事務局でまとめている。
5. 支部長会活動
 2020 年 3 月 14 日に東京にて第 8 回支部長会が開催
 された。
6. 分科会活動
- 1) 第 34 回日本糖尿病合併症学会 (第 25 回日本糖尿
 病眼学会総会と併催)
 会 期 2019 年 9 月 27 日 (金)~28 日 (土)
 会 場 大阪国際会議場
 会 長 佐々木秀行 (和歌山県立医科大学みら
 い医療推進センターサテライト診療所本町)
 参加者 1,466 名
7. 出版事業
- 1) 会誌「糖尿病」第 62 巻 4 号, 第 62 回年次学術集
 会抄録号~第 63 巻 3 号まで, 13 回発行
 会誌「Diabetology International」Volume 10・
 Number 2-4, Volume 11・Number 1, 4 回発行
- 2) 糖尿病患者向け指導書
- ①糖尿病食事療法のための食品交換表 第 7 版
 110,000 部発行
- ②糖尿病治療の手びき 2017 改訂第 57 版
 増刷なし
- ③糖尿病性腎症の食品交換表 第 3 版
 10,000 部発行
- ④糖尿病食事療法のための食品交換表 CD-ROM 版
 (ver.4) 増刷なし
- ⑤糖尿病性腎症の食品交換表 CD-ROM 版 (ver.2) 付
 き 増刷なし
- ⑥ Food Exchange List 増刷なし
- ⑦糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編 第
 2 版 増刷なし
- ⑧カーボカウントの手引き 増刷なし
- 3) 医師および医療スタッフ向け指導書
- ①こどもの糖尿病・サマーキャンプの手引き 第 3
 版 増刷なし
- ②糖尿病食事療法指導のてびき 第 2 版 増刷なし
- ③糖尿病療養指導の手びき 改訂第 5 版 増刷なし
- ④糖尿病治療ガイド 2018—2019 増刷なし
- ⑤糖尿病学用語集 第 3 版 増刷なし
- ⑥糖尿病遺伝子診断ガイド 第 2 版 増刷なし
- ⑦糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第 7 版
 増刷なし
- ⑧小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン
 増刷なし
- ⑨糖尿病診療ガイドライン 2019 8,000 部発行
- ⑩糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニユ
 アル 1,000 部発行
- ⑪医療者のためのカーボカウント指導テキスト
 増刷なし
- ⑫高齢者糖尿病治療ガイド 2018 増刷なし
- ⑬高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017 増刷なし
- ⑭小児・思春期 1 型糖尿病の診療ガイド 増刷なし

⑮糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサステートメント

3,000 部発行

8. 糖尿病週間

2019年11月11日～17日、第55回全国糖尿病週間の行事が一斉に行われた。テーマは「サルコペニア・フレイル」、標語は「人生100年 筋量増やして 健康寿命」。

9. 国際糖尿病連合会議など

- 1) IDF General Assembly (2019年12月)への出席
- 2) IDF-WPR Council Meeting (2019年12月)への出席
- 3) IDF Global Village への出展 (2019年12月3日～5日, 釜山)
- 4) 第8回 East-West Forum の開催 (2019年9月)
- 5) EASD Association Village への出展 (2019年9月17日～20日, バルセロナ)
- 6) 日欧交換留学プログラム受賞者の選出
- 7) The 11th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes の開催 (第62回日本糖尿病学会年次学術集会との同時開催)

10. 合同委員会など

- 1) 糖尿病腎症合同委員会
- 2) 膵臓移植中央調整委員会
- 3) 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会
- 4) 糖尿病と痛に関する合同委員会
- 5) 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会
- 6) 高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会
- 7) 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会
- 8) 日本循環器学会・日本糖尿病学会合同委員会
- 9) 診療録直結型全国糖尿病データベース事業 (J-DREAMS) 合同委員会
- 10) JDCP Study 研究調整委員会
- 11) 糖尿病対策推進会議

11. 普及・啓発・後援事業

- 1) 日本糖尿病協会への協力
「さかえ」および「つぼみ」発行の企画等
- 2) 世界糖尿病デーへの参加
「世界糖尿病デー」関連イベントの開催
- 3) 第54回日本理学療法学術研修大会 in 徳島 2018

2019年5月25日～26日

- 4) 第11回「より良い特定健診・保健指導のためのスキルアップ講座」生活週間病改善講習会

2019年6月15日/6月23日

- 5) DKDに関する公開セミナー 2019年7月7日

- 6) 2019年度全腎協全国大会 in 大分

2019年7月7日

- 7) 第25回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会 2019年7月15日

- 8) 第7回日本糖尿病療養指導学術集会

2019年7月20日～21日

- 9) 栄養の日・栄養週間 2019

2019年8月1日～7日

- 10) 第6回チャレンジ!糖尿病いきいきレシピコンテスト 2019年8月1日～10月20日

- 11) 第32回日本循環器病予防セミナー

2019年8月2日～6日

- 12) 第36回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー

2019年8月24日～25日

- 13) 第6回国際亜鉛生物学会学術集会

2019年9月9日～13日

- 14) 第19回日本先進糖尿病治療研究会・第17回1型糖尿病研究会 2019年11月2日～3日

- 15) 令和元年度「食育健康サミット」

2019年11月28日

- 16) ICoFF2019/ICPH2019/ISNFF2019

2019年11月28日～12月5日

- 17) 第31回日本糖尿病性腎症研究会

2019年11月30日～12月1日

- 18) 第31回分子糖尿病学シンポジウム

2019年12月7日

- 19) 健康日本21推進全国連絡協議会

2019年12月19日

- 20) 第15回長寿医療研究センター国際シンポジウム

2020年2月15日

- 21) 公開セミナー「腎臓病克服への挑戦—早期CKDのエンドポイント—」 2020年2月29日

●庶務報告

1. 総会

2019年5月23日、仙台国際センターにて第62回定時社員総会を開催した。2018年度事業報告、庶務報告、収支決算報告が承認され、また2020年度事業計画が承認された。第65回会長に小川渉学術評議員が選出・承認された。

2. 学術評議員会

2019年5月22日に開催された。

3. 理事会

定例理事会は2019年5月22日, 12月15日, 臨時理事会は2020年3月14日の合計3回開催された。

●会員状況報告 (2020年3月31日現在)

1. 役員等

1) 役員

理事 18名 (2018年度末 18名)

監事 2名 (2018年度末 2名)

2) 学術評議員 739名 (2018年度末 707名, 32名増)

2. 会員等

1) 名誉会員 36名 (2018年度末 36名)

2) 正会員

2019年3月末日会員数 17,587名

2019年度新入会 490名

退会 -441名 退会内訳
希望退会 329名

会費未納による資格喪失 92名
物故者 20名

正会員 現在数 17,639名 (49名増)

3) 賛助会員

2019年3月末日会員数 36名

入会 1名

退会 -1名

賛助会員 現在数 36名

3. 物故会員

功労学術評議員 小田桐玲子

会員 愛甲進 池端史子 今関孝子 岩川裕美

大方治道 岡野正 川田智恵子 久保文芳

佐藤好永 高倉康人 高田洋一 高橋大輔

高宮治生 津島慶三 名取博之 花房博

山口肇久 山田充 李輝雄

(敬称略, 連絡のあった方のみ)

2. 委員会報告および各種報告

〈出版に関する報告〉

1. 「糖尿病」編集委員会 委員長 大澤春彦

1) 委員会開催 5回 (2019年4月14日, 5月23日, 8月25日, 10月19日, 2020年1月12日)

2) 委員改選に伴い委員長選出を行った結果, 委員長に大澤春彦理事, 委員長の指名により副委員長は松岡孝昭委員に決定した。

3) 論文投稿状況および採択率

投稿数	原著	症例報告	短報	委員会報告	編集者への手紙
77	37	35	2	2	1

採択	否	取下げ	採択率
58	30	0	66% (前年 72%)

4) 出版状況は, 第62巻4号から第63巻3号までの12誌と「第62回年次学術集会抄録号」を刊行した。論文の他に, 第62巻12号に学会賞(ハーグドーン賞・リリー賞)受賞講演を, 第63巻3号にコンセンサスステートメント「糖尿病患者における栄養食事指導」を, 7支部地方会の演題抄録も掲載した。

5) 特集は, 第62巻8号に「糖尿病の遺伝素因—単一遺伝子異常による糖尿病—」, 第62巻11号に「糖尿病網膜症・黄斑浮腫診療 update」を掲載した。現在4企画を掲載に向けた準備中であり, 今後も特集の充実化を図っていく。

6) 投稿時の倫理委員会承認書類提出の義務付けなど投稿規定の一部見直しを検討中である。

2. 「Diabetology International」編集委員会

委員長 羽田勝計

1) 委員会開催状況 1回 (2019年5月24日)

2) 論文投稿状況及び採択率

2020年3月31日現在

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
Total Submitted	89	78	95	118	32
Monthly average	7.4	6.5	7.9	9.8	10.7
Total Decisions	76	65	97	107	27
(Accept)	47	35	41	32	11
(Reject)	29	30	56 (Transfer 1件)	75	16
Acceptance Rate	62%	54%	44%	28%	41%

3) 出版状況

2019年 Vol. 10-1~4, 2020年 Vol. 11-1 までを予定通り刊行した。年4回 (1・4・7・10月) 季刊発行をしている。

4) 委員会報告掲載状況

Title	Volumes & Issues
Recommended configuration for personal health records by standardized data item sets for diabetes mellitus and associated chronic diseases : a report from a collaborative initiative by six Japanese associations	Vol. 10-2
Diabetes care providers' manual for disaster diabetes care	Vol. 10-3
Recommendations on the proper use of SGLT2 inhibitors	Vol. 11-1

5) 依頼論文

Name (Award)	Title	Article Type	Volumes & Issues
S. Asahara, W. Ogawa	SGLT2 inhibitors and protection against pancreatic beta cell failure	Editorial	Vol. 10-1
M. Kitada, D. Koya	Proposal of classification of "chronic kidney disease (CKD) with diabetes" in clinical setting	Commentary	Vol. 10-3
H. Mori, A. Kuroda, M. Matsuhisa	Clinical impact of sarcopenia and dynapenia on diabetes	Commentary	Vol. 10-3
M. Okada-Iwabu, M. Iwabu, T. Yamauchi, T. Kadowaki (リリー賞受賞論文 2019)	Drug development research for novel adiponectin receptor-targeted antidiabetic drugs contributing to healthy longevity	Review Article	Vol. 10-4
S. Kume (リリー賞受賞論文 2019)	Pathophysiological roles of nutrient-sensing mechanisms in diabetes and its complications	Review Article	Vol. 10-4
X. Jia, Y. Gu, H. High, L. Yu (第62回年次学術集会海外招待演者)	Islet autoantibodies in disease prediction and pathogenesis	Review Article	Vol. 11-1

6) IF 取得に向けての取り組み

DI の認知度を上げる策として、2018 年 6 月から学会員向けに DI メールマガジンを配信している。また、2019 年 4 月からは DI に掲載されている論文内容を周知させるべく、テーマ別の論文リストの掲載を開始した。2019 年 2 月 28 日開催の臨時理事会に於いて、DI 誌から引用頂く事、年次学術集会海外招待演者に Review を依頼する事、英語版ガイドライン改訂の早期着手、の 3 点

について要望書を提出し承認された。2019 年 4 月 7 日開催の常務理事会に於いて、年次学術集会、地方会での幕間スライド投影が承認され、各会への依頼を開始した。本対策により 2019 年の仮 IF 数値は 2020 年 3 月時点で 1.121 に上昇した。今後も対策を継続し、IF 付与の目標値である 3.0 を目指す。

7) 「DI Best Impact Award」設立について

優れた論文を呼び込み国際誌として発展させるため、「DI Best Impact Award」を設立する事が 2019 年 12 月 15 日開催の理事会に於いて承認された。第 1 回目の受賞は、2021 年第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会に於いて発表される。

8) PubMed Central (PMC) 申請について

2018 年 11 月 28 日に申請が承認され、Vol. 7-1 号 (2016 年) 以降の issue に掲載された論文が PubMed 上で検索可能となった。以降、issue に掲載された論文は PubMed 上で Abstract が閲覧可能となり、さらにオンライン発行から 1 年が経過した論文については全文閲覧も可能となっている。尚、Medline への掲載再申請は、IF 取得後を予定している。

3. 「食品交換表」編集委員会 委員長 綿田裕孝

- 1) 委員会開催 (1 回) : 2019 年 5 月 25 日
- 2) アンケート調査「糖尿病食事療法の指導状況の調査」(2018 年 6 月 -7 月実施) について
- 3) 調査結果について会誌「糖尿病」へ委員会報告として投稿し、査読意見への対応を行っている。
- 4) 「糖尿病診療ガイドライン 2019」が発行されたこと、また上記アンケート調査結果も考慮し、今後の改訂について方向性を検討する予定としている。

別添 1

部数	売上部数	(累計売上部数)	増刷部数	(累計発行部数)	刊行日
食品交換表 第 7 版	77,626	(802,595)	110,000	(910,000)	2013 年 11 月 1 日
食品交換表活用編 第 2 版	3,922	(31,191)	0	(40,000)	2015 年 1 月 15 日
糖尿病腎症の食品交換表 第 3 版	3,096	(21,715)	10,000	(35,000)	2016 年 6 月 1 日
医療者のためのカーボカウント指導テキスト	1,537	(13,361)	0	(20,000)	2017 年 4 月 11 日
カーボカウントの手びき	1,564	(13,365)	0	(20,000)	2017 年 4 月 11 日

別添 2

	申請	審査中	許可		取下	
			無条件	条件付	審査前	審査中
食品交換表 第 7 版	34		4	27	2	1
食品交換表活用編 第 2 版						
糖尿病腎症の食品交換表 第 3 版	2		2			
医療者のためのカーボカウント指導テキスト	14			14		
カーボカウントの手びき	3			3		

- る.
- 5) 出版事業 売上・発行状況 (2019年4月～2020年3月) 別添1
 - 6) 引用許可願いの審査状況 (2019年4月～2020年3月) 別添2

4. 「糖尿病治療の手びき」編集委員会

委員長 前川 聡

- 1) 委員会開催 (1回) : 2019年5月23日
- 2) 「糖尿病治療の手びき 2020 改訂第58版」について、昨年度の決定の通り患者・家族と医療者がともに学べる「療養指導のエッセンス」を盛り込む方向で、2020年5月の刊行に向けて改訂作業を進めている。
 - ①委員の改選があったため、執筆分担については前委員から新委員への引き継ぎを行った。
- 3) 「糖尿病治療の手びき 2017 改訂第57版」の売上部数は41,426部である (2020年3月末時点)。

5. 小児糖尿病委員会

委員長 浦上達彦

- 1) 委員会の開催
 - ①小児糖尿病委員会 : 1回 (2019年5月25日)
 - ②1型糖尿病移行期医療合同委員会 : 2回 (2019年5月23日, 2020年1月13日)
- 2) 成人医療移行期支援プログラム
 - ①本学会の小児糖尿病委員会, 日本小児内分泌学会, 日本糖尿病協会から選出の委員で構成される「1型糖尿病に関する成人医療移行期委員会」により作成された「成人医療への移行に関するチェックリスト」を3学会, 協会のホームページに掲載した。
 - ②「成人医療への移行の現況に関する小児科医に対するアンケート調査」を作成し, 日本小児内分泌学会評議員に対してアンケート調査を実施した。結果は日本糖尿病学会学術集会他で発表予定である。
 - ③日本糖尿病協会が主体となり作成した「1型糖尿病移行期医療コーディネーター案」を, 本学会としては参考にはするが, 承認という結論ではなく, 継続審議とした。
- 3) 1型糖尿病 (インスリン治療を必要とする) 幼児の幼稚園・保育施設への入園取り組みガイド—園児受け入れ担当者と保護者のために—を日本小児内分泌学会糖代謝委員会と協力して改訂し, 日本糖尿病学会および日本小児内分泌学会のホームページに掲載した。

6. 「糖尿病治療ガイド」編集委員会

委員長 植木浩二郎

- 1) 委員会開催 : 4回 (2019年4月21日*, 5月24日, 9月23日*, 11月24日)

* : 委員長とタスクフォースメンバーによる委員会
- 2) 「糖尿病治療ガイド 2020-2021」は2020年5月の発行予定として改訂作業を進めている。
- 3) 「糖尿病治療ガイド 2018-2019」の売上部数は85,579部である (2020年3月末時点)。

7. 「糖尿病学用語集」編集委員会

委員長 藤本新平

- 1) 委員会開催 : 1回 (2019年5月24日)
- 2) 昨年度の綿田裕孝 前委員長からの委員長交代に引き続き, 一部委員の交代について2019年5月22日 定例理事会にて承認を得た。
- 3) 引き続き「糖尿病学用語集」オンライン版では, 「My Page」を活用し学会員からのご意見・ご提案を随時受け付ける窓口を設けており, 投稿されたものについては委員会で審議し対応を検討する [今年度前期 : 受付なし]。
- 4) 昨年度に対応した厚生労働省からの依頼 ([ICD-11] の用語の和訳に関する検討依頼) に関連し, 「インスリン依存 (型) 糖尿病」について「インスリン依存性糖尿病」への表記統一修正を行った。
- 5) 2020年1月に日本医学会 医学用語管理委員会より「遺伝学用語改訂に関する報告」を受け, 本学会として理事会での確認も経て異存ない旨の回答を行った。
- 6) 「糖尿病診療ガイドライン 2019」の公開および2020年5月発行予定の「糖尿病治療ガイド 2020-2021」に伴い, 「糖尿病学用語集」への用語追加について検討を行う。

8. 「糖尿病専門医研修ガイドブック」作成委員会

委員長 谷澤幸生

- 「改訂第7版」を2017年5月19日に刊行し, 2019年4月～2020年3月末の売上部数は927部であった。
- 「改訂第8版」(一部改訂) の刊行に向けて, 2019年5月22日定例理事会で承認された新体制での改訂作業に着手した。委員会は開催していないが, 専門医認定委員会担当理事および専門医試験委員会担当理事で編集委員のパート分担と執筆者の選定を行った。「糖尿病診療ガイドライン 2019」(9月30日公開) の内容と齟齬の無いよう執筆いただくよう依頼をしている。2020年8月頃の刊行を目指して作業を進めている。

9. 「糖尿病診療ガイドライン2019」策定に関する委員会
委員長 荒木栄一

- 1) 今年度前期には、「糖尿病診療ガイドライン2019」の作成過程において、Eメールでの会議を随時行った。
- 2) 2019年9月30日に「糖尿病診療ガイドライン2019」(PDF)を学会ホームページで公開した(書籍版は10月18日より販売を開始した)。
- 3) 「糖尿病診療ガイドライン2024」の改訂作業開始に向けて、2020年4月10日に谷澤幸生 新委員長と引継ぎのための打合せを開催する。
- 4) 「糖尿病診療ガイドライン2016」の売上部数は7,700部(2019年9月末時点)、「糖尿病診療ガイドライン2019」の売上部数は6,172部である(2020年3月末時点)。

10. 英語版「糖尿病診療ガイドライン2016」作成委員会
委員長 荒木栄一

- 1) 委員会開催：1回(2019年7月15日)
- 2) 委員就任について

「糖尿病診療ガイドライン2019」の発刊に伴い、英語版作成に着手した。委員長は、英語版「糖尿病診療ガイドライン2016」作成委員会羽田勝計前委員長から、荒木栄一新委員長に交代した。本委員会より、英文誌編集委員会の担当理事である戸邊一之理事が副委員長に就任する。2019年5月の理事会に於いて、委員長の交代、副委員長および委員の就任が承認された。

委員：荒木栄一(委員長)、戸邊一之(副委員長)、大澤春彦、折笠秀樹、後藤温、近藤龍也、田口昭彦、谷澤幸生、野田光彦、能登洋、吉岡成人

- 3) 作成スケジュールについて
英語版の構成は「糖尿病診療ガイドライン2016」を踏襲し、各章CQ・Qのステートメント、付録(抜粋)、主要な図表、文献からなる簡易英語版を作成する。2020年1月の発行を目標としていたが、「糖尿病診療ガイドライン2019」の発刊が遅れた事により、2020年早期の発行を目指す。現在、担当章毎に翻訳原稿を校閲中である。英語版「糖尿病診療ガイドライン2016」同様、Diabetology InternationalとJournal of Diabetes Investigationに同時掲載を予定している。
- 4) 章の担当について
グループ毎に、各委員の担当を以下のとおり決定した。

	グループ	担当章
荒木 栄一 近藤 龍也	1	序文, 6章, 10章, 17章
		6章, 10章, 17章

谷澤 幸生	2	7章, 13章, 21章, 付録3
田口 昭彦		
野田 光彦	3	2章, 5章, 20章
後藤 温		2章, 5章, 20章, 付録1
戸邊 一之	4	1章, 9章, 11章, 19章
折笠 秀樹	5	診療ガイドライン策定の方法論
能登 洋	6	4章, 14章, 16章, 付録4
大澤 春彦	7	12章, 15章, 付録2
吉岡 成人	8	3章, 8章, 18章

〈学術調査研究・教育に関する報告〉

11. 2020年度坂口賞および学会賞に関する報告

理事 植木浩二郎

- 1) 坂口賞は、春日雅人会員および田嶋尚子会員に授与する。
- 2) 学会賞審査委員会(荒木栄一委員長)を2020年1月13日に開催し、各受賞者を選出した。

(1) ハーゲドーン賞

片桐秀樹(東北大学大学院医学系研究科)

「臓器間神経ネットワークによる個体レベルの代謝調節と糖尿病」

(2) リリー賞

i) 松坂 賢(筑波大学医学医療系)

「脂肪酸伸長酵素 Elovl6によるエネルギー代謝制御機構と糖尿病における病態生理学的意義に関する研究」

ii) 藤坂志帆(富山大学医学部)

「肥満2型糖尿病における脂肪組織 M1/M2 マクロファージの役割」

(3) 女性研究者賞

今村美菜子(琉球大学大学院医学研究科)

「ヒトゲノム解析研究による2型糖尿病および糖尿病合併症の病因解明と新規治療法探索」

12. 学術調査研究・教育委員会 委員長 荒木栄一

学術調査研究の新規申請については、前年度からの継続審議であった「糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の総合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究委員会」、「がん治療中の糖尿病管理に関する医師の意識調査」、「2型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼす長期的な影響の検討」についてそれぞれ検討した。

2019年11月3日に委員会を開催し、以下の4件について協議を行い、理事会での議題として取り上げていただくこととした。

- 1) 今後の学術調査研究の応募方法、審査方法などのあり方について
- 2) 新規申請の採択について

- 3) 若手研究奨励賞, 医療スタッフ優秀演題賞 両規定の選考委員 (理事委員) の変更について
- 4) 助成金の名称変更について
 同年12月15日に開催された理事会で, 学術調査研究に関する新規申請手続きについては, 従来の随時受付から, 1) 募集期間を定めての受付に変更し, 2) 複数の申請について同時に審査を行うこと, 3) 若手研究奨励賞, 医療スタッフ優秀演題賞の規定を変更し, 本委員会から選出する選考委員について, 従来の「担当理事から2名を選出」を「委員のうち少なくとも1名は学術調査研究・教育担当理事から選出する」に変更すること, 4) 若手研究助成金の名称に学会名と助成金の支給年を付して, 「日本糖尿病学会若手研究助成金 (後援: ノボ ノルディスク ファーマ株式会社) (2020-2021)」のように表記することがそれぞれ承認された。

13. 学術調査研究等倫理審査委員会

委員長 池上博司

今年度は3件の新規申請があり, 持回り審議による審査にて2件は以下の決定をし, 1件は現在審議中である。

- 1) がん治療中の糖尿病管理に関する医師の意識調査【承認】前年度からの継続審査で今年度に回答した。
- 2) 2型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼす長期的な影響の検討
 これまでの研究の継続研究であること, 中央の倫理審査委員会承認のうえで進める研究計画であることなどに鑑み, 糖尿病学会の学術調査研究・教育委員会にて研究計画が承認されれば, 本委員会でも改めて審査するには及ばないと結論とした。
- 3) 糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の総合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究
 現在審議中である。

14. 年次学術集会運営委員会 委員長 荒木栄一

年次学術集会の運営委託会社については, 第63回年次学術集会までで日本コンベンションサービスとの「業務委託に関する契約」が終了することから, 2019年6月21日付けの依頼文書にて, その先の5年間の業務委託先をHPなどで公募した。2社からの応募があり, 同年8月16日に両社によるプレゼンテーションを実施し, 検討後, 本委員会の出席者による投票を行い, 第64回年次学術集会から第68回年次学術集会の運営を日本コンベンションサービス

に委託することを決定した。

また同日, 第63回年次学術集会については, 1) 「スポンサードシンポジウム」の実施を検討していること, 2) RUN&WALKを今後も実施するならば, 市民からも一定数参加者を募集しなければ, 利益供与の問題により, 今後は企業からの資金提供ができなくなる旨の指摘があり, 今後の運営の進め方について検討していることが, 前川会長から報告された。

糖尿病学の進歩の期間中である2020年3月12日に本委員会を開催する予定であったが, 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により, やむを得ず中止することとなった。その後も同感染症が終息に向かわず拡大する状況であるため, 第63回年次学術集会の開催については, 前川会長と門脇理事長との協議により, 当初の5月開催は延期することを決定し, 4月3日付けで開催延期を公表することとなった。

15. 「糖尿病学の進歩」運営委員会

委員長 荒木栄一

2019年4月7日に委員会を開催した。

第53回「糖尿病学の進歩」について大門世話人が開催報告を行った。参加者数は2,534名 (うち有料参加者は2,084名で, 事前参加登録1,295名, 当日参加受付789名)。今回は参加費を事前登録¥11,000-, 当日受付¥13,000-として差を設けたため, 事前参加登録の割合が62.1%と高くなった。今後も同様の金額に差を設ける場合には, これが前例として参考になる。「プログラム・講演要旨」を作成したが, 事前発送は行わず, 抄録アプリや学会ホームページの「プログラム・講演要旨」PDFでの事前閲覧としたため送料などの費用削減となった。

第54回「糖尿病学の進歩」について古家世話人が準備状況を報告した。会期は2020年3月13日 (金)・14日 (土) で, 会場は石川県立音楽堂, ANAクラウンプラザホテル金沢, ホテル日航金沢, および金沢市アートホールの4会場で予定していた。

しかし, 2020年になると新型コロナウイルス感染症が流行の兆しを見せることとなり, 古家世話人が新型コロナウイルス感染拡大への対応として予定期日での開催については検討中である旨のコメントを2020年2月19日に発信し, 2月26日に延期を発表した。その間およびその後も種々検討した結果, 第54回「糖尿病学の進歩」は会期を新たに2020年9月2日 (水)・3日 (木) とし, 当初予定の会場で開催することを, 古家世話人が3月16日に発表した。

なお, 第55回「糖尿病学の進歩」は2021年 (令和3年) 3月5日 (金)・6日 (土) に札幌コンベン

ションセンターで開催の予定である。

16. 食事療法に関する委員会 委員長 宇都宮一典

2019年5月の第62回日本糖尿病学会年次学術集會にて、食事療法に関するシンポジウムを開催、診療ガイドラインの改定案、特に目標体重に柔軟性をもたせた新たなエネルギー設定法について、経緯と概要を発表、会場から活発な質疑がなされた。また、同学会のJapan-Korea Diabetes Sessionで食事療法をテーマとして取り上げ、両国の食事療法のガイドラインを比較・検討して意見交換を行った。併行して、新たなエネルギー設定法について栄養関連41学会に説明文書を送付、各学会の意見と対応の可否について回答を求めた。5月末に意見書を回収、概ね賛同が得られたと解釈できる内容であった。また、同時に会員からのパブリックコメントを募集した。折しも、「2020年版日本人の食事摂取基準」の出版事業に日程が重なったことから、同基準の生活習慣病重症化予防の項との整合性を図るため、厚生労働省と情報交換を行った。これらの結果から、本案は学会内外で了解がえられたものと判断し、診療ガイドラインの策定に着手した。2019年9月、糖尿病診療ガイドライン2019の公表に至った。2020年1月、2020年版日本人の食事摂取基準が厚生労働省から発表され、生活習慣病の重症化予防の項に、本ガイドラインの内容が反映された。

17. 糖尿病関連検査の標準化に関する調査検討委員会 委員長 西尾善彦

令和元年9月1日に日本糖尿病学会事務局会議室で委員会を開催した。議題として、本学会会員であるはくほう会セントラル病院の古賀正史先生よりご指摘をいただいた特定健診や人間ドックでのHbA1c値と病院受診時のHbA1c値が乖離する問題について討議し、以下の問題点が明らかになった。

- 1) HbA1c測定用としてNaF採血管がよく用いられているが浸透圧が高くなるので古い赤血球ほど溶血が生じやすい。2) HPLC法では全血を溶血させて測定するので試料の溶血の影響を全く受けないが、3) 酵素法や一部の免疫法では全血を遠心分離して、赤血球層を試料として測定に用いるので溶血の影響を受ける。4) その際、溶血の程度にもよるが全血値と比較して相対値で4%程度低値になる。

これらの点を踏まえて、対策を検討した結果、1) 病院では採血後速やかに検査を行うので、NaF採血管でも溶血し難いこと。また、病院ではHPLC法が使われることが多く溶血しても問題ないことから従

来通りNaF採血管を用いても良い。2) 一方、外部検査施設を用いるクリニックや検診などではNaF採血管を用いるのは溶血の影響を受けることが懸念される。3) 試料の前処理の手間の観点から現実的な対策としては、遠心分離を行い赤血球層を試料としてHbA1c測定を行う際にはEDTA採血管を用いる。遠心分離で赤血球層の試料を作成する際には溶血した試料を用いない。用いた場合は参考値となることを明示することを骨子とする勧告を委員会報告として学会誌「糖尿病」に投稿した。

次に、村上委員より国際的に進みつつあるCペプチド測定の標準化を日本でも取り組む予定であること、また、桑アドバイザーより、NGSP認証を受けた装置を用いたHbA1c値の測定精度管理の現状について、測定法に関わらず極めて揃った測定値が得られ、7年間の年次推移でも年々精度の向上が見られることが報告された。

- #### 18. アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究委員会 委員長 中村二郎
- 今年度、委員会は開催されなかった。

19. 1型糖尿病の成因、病態に関する調査研究委員会 委員長 池上博司

- 1) 免疫チェックポイント阻害薬・劇症1型糖尿病関連課題（担当副委員長：今川彰久）

「抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に発症する1型糖尿病に関する疫学調査」は症例集積が進み、現時点で77例（中間報告では22例）を集積、結果の一部は第62回年次学術集會のシンポジウムで発表した。今後地方会などを通じて更なる症例の集積を進める。さらに、HLAの特徴、甲状腺自己抗体の有無、睥島抗体の陽性例、インスリン分泌能の低下速度などの特徴づけ等についても検討する。疾患の分類として、「1型糖尿病」に属するか、「薬剤誘発性」に属するかが問題となるが、機序的にも、疾患の特徴を的確に伝えるためにも「免疫チェックポイント阻害薬に関連した1型糖尿病」(type 1 diabetes related to immune checkpoint inhibitors)が適切と思われた。

- 2) 睥島関連自己抗体測定法関連課題（担当副委員長：島田朗）

1型糖尿病患者の同一検体による検討で、IA-2抗体RIA法とELISA法の抗体価は有意な正相関を認めたが、RIA陽性患者の15~20%はELISA法で陰性であった。また、IA-2抗体陽性SPIDDMにおけるF-CPRは抗体陰性例に比べ有意に低値を示した。さらに、インスリン分泌枯渇へ進行し

た SPIDDM は、未進行例に比べ女性優位、BMI 低値、F-CPR 低値、GAD 抗体・IA-2 抗体陽性率が有意に高値という特徴がみられた。IA-2 抗体 RIA 法と ELISA 法の測定結果乖離の原因究明として IA-2 蛋白を用いて吸収試験をおこなった結果、RIA 法陰性・ELISA 法陽性例、RIA 法陽性・ELISA 法陰性例ともにその抗原特異性が確認された。

3) SGLT2 阻害薬の適正使用に関する Recommendation

一部の SGLT2 阻害薬が成人 1 型糖尿病におけるインスリン製剤との併用療法として適応を取得されたことを受けて、標記 recommendation の改訂作業に阿比留、池上両委員が参画し 2019 年 7 月 23 日付でホームページにアップされた。

20. 単一遺伝子異常による糖尿病の成因、診断、治療に関する調査研究 委員長 稲垣暢也

1) 京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センターと共同し、単一遺伝子異常による糖尿病の主要な原因遺伝子 (GCK, HNF1A, HNF1B, HNF4A, KCNJ11, ABCC8, INS, PDX1, NEUROD1, WFS1, INSR) についてターゲットシーケンスを行う系を確立した。具体的には、11 遺伝子のエクソン領域をカバーする PCR 産物 (58 個) を作成し、次世代シーケンサー (iSeq) を用いて解析する。本法を用い、単一遺伝子異常による糖尿病 5 症例のゲノム DNA を解析した結果、全てサンガー法の結果と一致し、系の確立を確認した。1 ランで最大 100 検体 (100 症例) を 1 週間で解析可能であり、1 ランで 20 検体を解析した場合約 1 万円/1 検体の低コストで実施可能である。

2) 「日本糖尿病学会学術調査研究等倫理審査委員会」および「京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会」において承認された研究計画に基づいた広報文が、2020 年 3 月 14 日の臨時理事会で承認された。これを受け、同 27 日付けで学会ウェブサイトへ広報文・説明同意文書・症例登録用フォーマットを掲載し、全国の糖尿病学会員からの症例募集を開始した。今後、症例の遺伝子解析を鋭意進める。

21. 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会 委員長 松久宗英

1) 委員会開催：1 回 (2019 年 10 月 5 日)
2) 難波光義前委員長より委員長を引き継ぎ、第 2 次調査委員会の委員構成を検討した。

①検討した委員構成について、2019 年 5 月 22 日定例理事会にて承認された。

3) 2019 年 10 月 5 日に第 2 次第 1 回の委員会を開催し、調査計画について検討した。

① NDB や J-DREAMS など既存データベースを活用する調査と高リスク者への CGM による低血糖可視化の実態調査の計画を進めることとした。

4) 2020 年度を準備期間とし、実際の調査期間を 2021-2023 年度の 3 年間とする方針である。

22. 膵・膵島移植に関する常置委員会

委員長 稲垣暢也

今年度は委員会を開催せず、一部の委員でメールによって確認を行った (以下に記載)。

従来実施されていた日本臓器移植ネットワーク (以下 JOT) による匿名加工データ提供が、個人情報の取り扱いの観点から行われなくなったことを受け、膵臓移植待機患者の状況を調査解析するため、JOT へのデータ提供申請を検討している。有償化された当該データは、30 万円以内で入手可能との見積を得ている。膵臓移植中央調整委員会とも連携して、来年度には申請手続きを進め、待機患者の調査解析に役立てていく予定である。

また、「膵臓移植に関する実施要綱」を膵臓移植中央調整委員会と連携して 9 年ぶりに改訂した。新たに「膵臓移植と膵島移植の比較」という項目を追加し膵島移植に関する啓発に取り組んでいる。

膵島移植が保険収載される方向であり、膵島移植適応基準・適応判定申請書について、協議を進めている。

23. インクレチン薬治療のヒト膵腫瘍発生リスクに関する臨床病理学的研究調査委員会

委員長 八木橋操六

本調査委員会ではインクレチン治療の糖尿病膵に与える病理変化について糖尿病剖検例での評価を継続して検討している。今年度はインクレチン治療の追加症例 15 例を新たに加えて計 61 例について膵病理の解析を行った。インクレチン非治療例 30 例、非糖尿病対照症例 32 例との比較検討を行っている。評価目的として膵内分泌細胞分布への影響に加えた膵外分泌組織での腫瘍性変化の検討がある。膵内分泌細胞分布に関しは、糖尿病で減少した β 細胞占有容積に関して大きな変化はみられていない。一方、 α 細胞容積に関しての増加傾向を認めている。一方、外分泌変化については、膵導上皮の増殖所見、炎症所見等について専門医による外部評価を実施検討中

である。

24. 我が国における1型糖尿病の実態の解析に基づく適正治療の開発に関する研究

委員長 島田 朗

本委員会は2019年11月に申請が承認されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により本年度は委員会が開催できず、次年度から活動を開始する予定である。

〈学会認定事業に関する報告〉

25. 専門医認定委員会 委員長 中村二郎

専門医認定委員会を5月に1回開催した。専門医および研修指導医の申請に関する書類審査（合否判定含む）を8月から11月にかけて6回開催した。

2019年度の専門医試験は、内科426名、小児科16名（暫定小児科12名含む）の合計442名が申請した。

書類審査を経て内科417名、小児科13名（暫定小児科10名含む）の合計430名が筆記・面接試験を受験し、内科280名、小児科9名（暫定小児科6名含む）の合計289名が合格した。申請者合格率65%であった。

研修指導医の新規申請115名（随時申請28名含む）、認定教育施設I 17施設、認定教育施設II 5施設、認定教育施設III 2施設、教育関連施設9施設が認定された。

専門医更新は更新辞退33名、資格停止23名、資格喪失19名、研修指導医更新辞退18名、資格停止3名、資格喪失3名であった。2020年4月現在の専門医数は6,171名、研修指導医2,271名、認定教育施設I 692施設、認定教育施設II 99施設、認定教育施設III 9施設、教育関連施設58施設、連携教育施設（小児科）23施設である。

2020年秋頃発刊予定の「糖尿病専門医研修ガイドブック第8版」に関連して、研修カリキュラムの項目名の修正や到達目標の見直しを行った。

教育施設更新の書類審査は、支部認定委員会で行っていたが、会場費、旅費などの支出を抑えることを目的として、今年度から支部認定委員長に「会場審査」か「郵送審査」のいずれかを選択いただくこととし、施設更新審査を行った。

新専門医制度対象の専攻医が経験した症例登録を行う糖尿病学会独自の「研修管理システム」の構築作業を行い、経験症例を登録する際の入力項目を決定した。事務局および専門医認定委員会で動作確認が完了次第、学会ホームページで案内することとなった。

2020年度以降、専門医試験の再受験者に関する書類審査の在り方について検討することとなった。

また、新専門医制度は、2019年4月開始予定のサブスペシャルティ領域の連動研修が見送られたことを受け、今後の動向を注視しつつ、引き続き日本専門医機構や日本内科学会と連携を図ることとした。

26. 専門医試験委員会 委員長 西尾善彦

2019年5月25日、第51回専門医試験委員会が開催され、第30回糖尿病専門医試験にむけて、試験方法と出題問題の作成分担、口頭試験担当者、試験監督担当者を決定した。

8月11日に委員長ならびに数名の理事・委員が、提出された試験問題のチェックを行った。2014年度より、選択問題・論述問題それぞれに小児科用問題を設けることとし、論述問題については全ての問題を内科と小児科に分けて出題された。9月15日に委員全員で試験問題の選定が行われた。

第30回専門医試験は、2019年10月27日に東京国際フォーラムにおいて実施した。

受験者は430名（内科417名、小児科3名、小児科特例10名）で、11月10日に合否判定案を作成、11月23日に専門医認定委員会に報告、289名の合格者（内科280名、小児科3名、小児科特例6名）が確定した。なお、受験者全体合格率は67%であった。

今年度も希望のあった受験者に対し成績の開示を行った。

第31回（2020年度）の試験は10月25日（日）都市センターホテルにて、第32回（2021年度）の試験は10月24日（日）パシフィコ横浜にて、実施を予定している。

〈その他学会活動に関する報告〉

27. 選挙管理委員会 委員長 宇都宮一典

例年同様、本委員会は郵便、e-mail等を利用して委員会活動を進めていくこととし、従来の申し合わせに従い、理事会推薦の宇都宮一典委員を委員長とし、以下の事項を確認した。2020年度「会長選挙」の手順は前年度の「会長選挙手順」を踏襲し、

- 1) 支部からの推薦締切日は2019年11月7日とする。
- 2) 推薦された方の意思確認は11月25日までに事務局必着とする。
- 3) 理事長への報告は11月28日までに行う。
- 4) 12月15日の定例理事会で、最終候補者3名を決定する。
- 5) 候補者の所信のフォーマットは前年度と同様とし、2020年1月15日を締切日とする。

2020年2月2日に委員会を開催し、以降の進め方について協議検討した。

1) 会長選出手順およびこれまでの手順についてそれぞれ確認した。

2) 所信の確認

2名の候補者から提出された所信について、内容、印刷の字体や文字数、行間隔などを検討し、本人への指摘事項を決定した。

3) 今後の手順について

所信の手直し終了後に、規則に則り従来の方で理事長への報告、会員への周知、学術評議員への所信の送付等を行うことが確認された。学術評議員のうち、メールマガジンでの送付が可能の方へは、メールマガジンにて所信がホームページに掲載されたことを通知し、閲覧を促すこととした。また、学術評議員会で配布する資料に所信に掲載することとした。

4) 学術評議員会での投票手順の確認について

①開票作業には、会長候補者のいない支部の出席委員と、候補者のいない支部から委員長が指名した者を含めて最大7名であたる。今回は北海道支部、東北支部、中部支部、近畿支部および中国・四国支部所属の出席者から2名に開票作業を依頼する予定である。

②投票用紙配布直前に会場を閉鎖し、回収後開放する。このことは、学術評議員へ候補者の所信を通知する際に記載する。

③今回も候補者名を予め投票用紙に記載し、所定の欄に丸印を付したものを有効とする。

④最多得票者に決定する。両者同数の場合は、入会年月日の早い者とする。

⑤各候補者の得票数は公表する。

⑥迅速に開票作業を行うため、投票用紙を折り曲げて投票する場合は「横二つ折りまで」とすることを注意事項として通達する。

以上は、議場で予め公表する。

28. 将来計画委員会 委員長 綿田裕孝

2019年5月23日第3次キックオフミーティングを開催した。

今後の活動について第1次、第2次の提言内容を踏まえ自由な意見交換を行った。

2020年3月に意見を集約し来年度の理事会に向けて提言していくこととしていたが、Covid19流行のため委員会を中止、第2回委員会を2020年4月11日にZoomを用いて開催する予定である。

29. 定款・細則検討委員会 委員長 植木浩二郎

本年度は委員会を開催しなかった。

女性理事の理事会推薦および会員数に比例した支部ごとの理事定数の将来の改定に備えて、理事定数に関する定款および細則の改訂案を理事会に提案し承認され、同改訂案を定時社員総会に上程することとなった。

30. 女性糖尿病医を promote する委員会

委員長 安孫子亜津子

1) 委員会開催：2回（2019年8月3日、2020年2月16日）

2019年度委員は2018年度から変更なし（18名）

2) 本委員会から要望していた「女性研究者賞」について、女性研究者賞ワーキンググループ・理事会での審議を経て2019年度より設置され、浅原哲子会員が第1回の受賞者に決定した。

3) 2017年度アンケート調査委員会報告について

①「糖尿病専門医の働き方と生活現状調査、学会に求められる取り組みについて」として会誌「糖尿病」第62巻5号に委員会報告が掲載された。

②英文誌「Diabetology International」にも投稿準備を進めている。

4) 年次学術集会と地方会

①第62回年次学術集会において、本委員会企画シンポジウム「ジェンダーフリーな働き方から糖尿病診療を考える」（2019年5月25日）を開催し、講演スライドを学会ホームページ内「女性糖尿病医サポートの取り組み」ページ（以下、本委員会HP）に掲載した。

②第62回年次学術集会において、参加者の子どもを対象とした新企画「キッズ医療体験セミナー」（2019年5月25日）を開催し、実施報告を本委員会HPに掲載した。

③2019年度地方会では北海道/関東甲信越/中部/近畿/中国・四国/九州にて本委員会企画セッションを開催した。

④2018年度に各支部地方会にて行った共通アンケート調査結果を「糖尿病News」2020年No.2に掲載予定である。

⑤第63回年次学術集会でも開催を予定していた「キッズ医療体験セミナー」については、新型コロナウイルスによる現況を考慮し、開催を中止することとした。

5) Webサイト「女性糖尿病医サポートの取り組み」（本委員会HP）

①会誌「糖尿病」第62巻5号に掲載された委員会報告を掲載した。

②「キラリ☆女性医師！」に、3件の記事を2019

年4月, 10月, 12月に掲載した「開設(2015年4月)からの累計掲載人数: 32名」.

- ③「ジェンダーフリーな職場づくり推進室」に, 第2回「北海道大学病院における取組」を2019年6月に掲載した.
- ④これから糖尿病専門医を取得予定で, 最前線で診療や研究を行っている若手医師(卒後3~6年目前後)のコーナーとして, 「キラリ☆女性医師! 若手特別版~私たちの今とこれから! ~」を開設し, 2019年2月, 8月, 2020年3月の計3件の記事を掲載した.
- ⑤「若手・研修医診療お役立ちツール」として, 日々の診療に活用できるWebサイトへのリンク集を掲載する新コーナーを開設した.
- ⑥ホームページの更新情報は, 本委員会からの学会員宛メールマガジンとして不定期配信・外部ニュースサイトでの告知記事掲載を継続して行っている.
- ⑦年次学術集会・地方会で企画した関連講演については, 講演動画・スライドを適宜「女性医師応援ライブラリ」コーナーに掲載している.
- 6) 他学会・他団体との連携
 - ①内科系学会の男女共同参画に関する連絡協議会(2019年4月27日), 第116回日本内科学会総会・講演会男女共同参画企画・医師の働き方改革についての検討会(2019年4月28日)に出席しパネルディスカッションで本学会の取り組みを報告した.
 - ②令和元年度女性医師支援担当者連絡会(2019年12月8日, 日本医師会女性医師支援センター・日本医学会連合共催)に出席した.
 - ③日本医師会からの「平成31年度 女性医師支援に関するアンケート調査」に回答し, 集計結果は日本医師会女性医師支援センターホームページに公開されている.

[参考資料]

<男女割合(2020年3月末時点)>

	男	女	全体	男	女	
理事	18名	0名	18名	100.0%	0.0%	(2018年5月改選)
学術 評議員	653名	86名	739名	88.4%	11.6%	(2019年5月改選)
専門医	4,182名	1,989名	6,171名	67.8%	32.2%	

<年次学術集会: 一般演題の女性医師座長割合>

2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
第62回	第61回	第60回	第59回	第58回
20.7%	13.7%	11.8%	22.7%	8.7%

<地方会(2019年度): 一般演題の女性医師座長割合>

第53回 北海道	第57回 東北	第57回 関甲信	第93回 中部	第56回 近畿	第57回 中四国	第57回 九州
26.7%	28.0%	30.0%	42.9%	38.9%	41.9%	33.3%

- 31. 広報委員会 委員長 植木浩二郎
 - 1) 今年度は委員会を開催しなかった.
 - 2) 学会ホームページの全面リニューアルについて作業を完了し, 2020年3月26日に公開した.
 - ① [一般の方へ]ページの内容については継続検討課題としている.
 - 3) 毎年10月-11月頃に「MyPage」アンケートを利用して「禁煙宣言」に関する実態調査を実施し, 喫煙/非喫煙者数の推移を集計している.
 - ①今年度調査として「2019年10月16日-11月15日」の期間で実施した.
- 32. 利益相反委員会 委員長 植木浩二郎
 - 1) 今年度は委員会を開催しなかった.
 - 2) 2019年9月30日「糖尿病診療ガイドライン2019」のweb公開を開始したが, 日本医学会における方針を踏まえ組織COIを追記公表した.
 - 3) 日本内科学会が「医学系研究利益相反(COI)に関する共通指針」の一部改定を検討していることから, 改定案に対する意見が求められた. 本委員会内での意見を取りまとめ, 理事による検討の上, 先方に学会として意見書を回答した.
 - 4) 日本医学会が2020年3月末に「日本医学会COI管理ガイドライン」の一部改定を行った. それに伴い示された組織COIの基準に沿って本会HPで開示, 公開していく.
- 33. 糖尿病の保険診療報酬に関する検討委員会 委員長 田中 逸
 - 1) 2020年度の診療報酬改定に向けて内保連を通して提案した案件は, 新規①糖尿病重症化予防データ解析指導管理料の設定(CDE-J相当医療スタッフによるCGMやSMBGなどのデータ評価・指導, チーム医療の評価), 新規②SGLT2阻害薬使用1型糖尿病患者の血中ケトン体自己測定加算の2件, 既記載①SAP使用患者の2か月に1回来院, 既記載②FGMの指導管理料を血糖自己測定に関する項目から分離して別個に設定, 既記載③リアルタイムCGMの適用拡大(頻回注射を必要とする2型糖尿病患者), 既記載④糖負荷試験の項目にSSPG法によるインスリン感受性評価を追加の4件, 合計6件である.
 - その結果, SAP使用患者の2か月に1回来院, FGMの指導管理料の別個設定, リアルタイム

CGMの適用拡大(頻回注射を必要とする2型糖尿病患者)の3件が採択された。これに伴って、リアルタイムCGMの適正使用指針とフリースタイルリブレに対する見解書の改訂を行った。

- 2) 妊娠糖尿病に対するインスリンの適応外使用について、「医薬品の適応外使用事例」申請書を取りまとめて、2019年12月に日本医学会に提出した。その後、同申請書は厚生労働省保険局医療課に提出され、同省から社会保険診療報酬支払基金の審査情報提供検討委員会に対して申請書の検討が依頼された。現在、同委員会で審議中であり、2020年10月頃に日本医学会を通じて審議結果が通知される予定である。

34. CGM 適正使用推進委員会 委員長 田中 逸

- 1) 2020年度の診療報酬改定でリアルタイムCGMの適用が拡大された(内因性インスリン分泌が欠乏し頻回注射が必要な2型糖尿病で、重症低血糖など重篤な有害事象が起きている血糖コントロールが不安定な患者も適応追加)。これを受けて、リアルタイムCGMの適正使用指針にこの旨を追記した(2020年4月1日付けで改訂)。
- 2) 2020年3月31日の時点で、リアルタイムCGMのeラーニング登録者数は2,637名、確認テスト修了者は1,861名で確実に増加している。今後、新機種の発売も予定されており、それに合わせて教材の内容の変更、追加を検討する予定である。
- 3) 2020年度の診療報酬改定で間歇スキャン式持続グルコースモニタリング(FreeStyle リブレ)の指導管理料に関する項目が新たに追加された。すなわち、従来のSMBGによる血糖測定の枠内で本品を使用する項目以外に、本品を中心に使用する枠内でSMBGも行える新しい項目(1,250点)が設定された。これを受けて、本品の適切な使用推進を図るために本品使用に関する見解を2020年4月1日付けで改訂した。

〈対外的活動に関する報告〉

35. 国際交流に関する報告 担当理事 稲垣暢也

- 1) 国際糖尿病連合 (IDF)
IDF Congress 2019 (12月2日~6日、韓国釜山) Global Villageに学会ブースを出展した。

① IDFに関する事項

- 1 Roadmap on CVD (IDF/WHF) 2回目サーベイに回答を提出した。サーベイに基づき“A Roadmap on the Prevention of Cardiovascular Disease Among People Living With Diabetes” (Global Heart : Vol. 14,

Issue 3, Sept. 2019, pp. 215-240)が掲載された。

- 2 IDF President, Prof. Nam H. Choの依頼により、2019年6月G20大阪サミット開催に向け、IDF・日本糖尿病学会・日本糖尿病協会の連名にて、内閣総理大臣宛てにユニバーサル・ヘルス・カバレッジに関する提言書を提出した。また、G20岡山保健大臣会合(同年10月)に向けて、厚生労働大臣宛てに同様の対応を行った。
- 3 IDF Congress 2019参加者に対し、1人10万円の旅費助成交付を理事審議にて決定した。対象者は、若手研究助成金採択者・YIA歴代受賞者・理事から推薦を受けた者(各理事1名)、かつ演題が採択された者とした。計15名に助成金が交付された。
- 4 IDF Congress 2019参加に際し、政治状況を踏まえIDF Presidentより日本人参加者に宿泊優待が提供された。理事、監事から参加者に案内をした。
- 5 IDF Congress会期中のGeneral Assembly(12月2日開催)に於いて、2020-21年のIDF会長は、2018-19年President-ElectのProf. Andrew Boulton (UK)が従来通り就任する事が決定し、President-ElectにはProf. Akhtar Hussain (Norway)が選出された。

② IDF-WPRに関する事項

- 1 IDF Board Meeting (2019年7月開催)へのWPR活動報告として、当学会よりDiabetes foot care programとDisaster programに関してレポートを提出した。災害時糖尿病診療マニュアルの英語ダイジェスト版“Diabetes care providers' manual for disaster diabetes care”を、Diabetology InternationalとJournal of Diabetes Investigationに6月14日同時掲載した。
- 2 IDF Congress会期中のCouncil meeting(12月1日開催)に於いて、門脇孝理事長が2020-21年のIDF-WPR Chair-Electに、矢部大介会員がIDF-WPR Executive Board Memberに選出された。

2) アジア糖尿病学会 (AASD)

- ① The 11th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetesが2019年5月23日(木)~24日(金)、仙台にて開催された(会長:山田祐一郎、第62回年次学術集会と同時開催)。
- ② 同学会会期中に、当学会とAASD, IDF-WPRの

合同シンポジウム(JDS/AASD/IDF-WPR Joint Symposium on Diabetes Management and Natural Disaster) (座長: 門脇孝理事長, Dr. Alicia Jenkins) を開催し, 「仙台宣言 2019」を採択した。

3) 欧州糖尿病学会 (EASD)

EASD 2019 (9月16日~20日, バルセロナ) Associations' Village に学会ブースを出展した。President's Tour Associations' Village 2019が開催され, 当学会ブースにて委員会メンバーと EASD President の Prof. David Matthews が情報交換した。

① East-West Forum に関する会議

2019年9月17日, EASD 2019 会期中に EASD と会議を開催した。第8回 East-West Forum は, EASD 2019 に於いて "Supporting diabetes self-management" をテーマに開催した。当学会からは中神朋子会員が座長を務め, 池田香織会員が登壇し発表した。次回は2020年, 第63回 JDS 年次学術集會会期中, 次々回は2021年, 57th Annual Meeting of the EASD 会期中に開催予定である。次回のテーマは "Which outcomes are driving the therapeutic perspectives-differences and similarities" に決定した。

② 欧州糖尿病財団 (EFSD) との交換留学プログラムに関する会議

2019年9月17日, EASD 2019 会期中に EFSD と会議を開催した。2019年度の応募書類の審議およびプログラム終了者の報告書レビューを行い, 2019年度は隅田健太郎 (神戸大学), 手嶋晶子 (東京医科大学病院) の2名に助成が決定した。2020年度の募集は4月1日に開始する。

4) 日韓関連

AASD 設立後に日韓シンポジウムを解消し, 当学会と韓国糖尿病学会 (KDA) の持ち回りで各学会の年次学術集會と合同開催してきた日韓フォーラムについて, 2019年以降, 各学会の年次学術集會の1つのセッションとして開催することとなった。第62回年次学術集會に於いて, Japan-Korea Diabetes Session として, 食事療法のガイドラインと栄養指導制度をテーマにシンポジウム (座長: 稲垣暢也常務理事, Prof. Hak Chul Jang) を開催した。

5) JDI 関連

査読, 投稿に関する当学会の支援のもと, 2018年インパクトファクター 3.902 (ISI Journal Citation Reports © Ranking: 2018: 42/145 (Endocrinology & Metabolism)) を取得した。

6) その他

American College of Cardiology から "Japan Cardiometabolic Education Program" への参画依頼があったが, 利益相反の懸念があるため現時点では応じない事を決定している。

36. 日本医学会に関する報告

評議員 植木浩二郎

第87回日本医学会定例評議員会は2020年2月28日に開催予定されていたが, 新型コロナウイルス感染症の影響により書面による決議に変更し実施された。2019年度日本医学会新規加盟学会に31学会からの申請があり, 日本女性医学学会, 日本てんかん学会, 日本インターベンショナルラジオロジー学会, 日本内分泌外科学会の4学会が承認された。日本医学会 COI ガイドラインが一部改訂され, 主に組織 COI 管理・開示についての項目が追加された。

37. 糖尿病総合対策への取り組みに関する報告

理事長 門脇 孝

ホームページに掲載している「日本糖尿病対策推進会議 日本糖尿病学会地区担当医一覧」ならびに「糖尿病腎症重症化予防における市町村担当糖尿病担当医」について, 随時更新を行っている。後者については都道府県により, 広範囲な区分, 医師会を基本とする区分, 行政単位に準じた区分などが混在しているが, 今後も各地域の実情に合わせて, より利用しやすいものになるように改定を進めていく予定である。

1) 「対糖尿病戦略5ヵ年計画」作成委員会

委員長 綿田裕孝

本委員会は, 第4次「対糖尿病戦略5ヵ年計画」の策定に向けて, 2017年5月17日の定例理事会での承認により発足した。今年度は2019年6月15日に委員会を開催し, リーフレットに掲載する内容を検討するとともに各章の校正を進めた。

第4次計画終了後の具体的実現目標として, 下記2項を定め, この実現を今後検証する方向で進めている。

- 1) 糖尿病患者と非糖尿病患者の寿命の差を短縮させる
- 2) 糖尿病患者の QOL を改善させる

この目標を達成するためには, 1,000万とおりの個別化医療構築が不可欠であり, これを実現させるための基盤として, ①包括的データベースによるエビデンス構築, ②糖尿病先端研究の結実, 以上2点を掲げ, さらにこの実施にむけて, ③将

来の糖尿病対策を担う人材育成、④国民への啓発と情報発信、以上の施策が必要との方針で本計画をリーフレットにまとめることとした。

本リーフレット案に関してはすでに、理事会メンバーにご高閲いただいたので、頂いた意見を反映させ、Brush Upをはかり、ほぼ最終 Version のリーフレット案が作成された。2020 年度前期での糖尿病学会 HP への掲載を目指している。

2) 「健康日本 21」の糖尿病対策検討委員会

委員長 荒木栄一

1) 今年度は委員会を開催しなかった。

2) 委員会活動

第 62 回日本糖尿病学会年次学術集会において、「シンポジウム 16 糖尿病腎症重症化予防のための戦略」が、日本糖尿病学会・日本糖尿病協会ジョイントシンポジウムとして、第 2 日となる 2019 年 5 月 24 日に仙台市民会館にて開催された。

このシンポジウムにおいては、「全国自治体における糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実証支援と事業評価」に引続いて、佐賀県、鳥取県、奈良県、大分県臼杵市からそれぞれの成果や取組みが報告されたほか、「進行腎機能障害期における透析予防指導前後 10 年間の腎機能低下速度の検討」、「糖尿病性腎症 4 期 27 症例の透析予防の取り組み」および「当院（熊本中央病院）における透析導入患者の、透析に至るまでの経過に関する検討」がそれぞれ発表された。

3) 糖尿病データベースの構築委員会

委員長 植木浩二郎

日本糖尿病学会では現在、JDCP study と J-DREAMS という 2 つの大規模データベースを有している。

(1) JDCP study 研究調整委員会

委員長 西村理明

JDCP study は、対象とした糖尿病患者 6,338 例を 8 年間追跡した観察研究である。2017 年 10 月末日で登録症例の追跡を終了とした。観察期間 3 年、5 年および 8 年の追跡率は、それぞれ、81.9%、73.0%、および 57.3% である。ベースラインデータに関しては、1 型糖尿病ならびに 2 型糖尿病患者について「糖尿病」並びに「Diabetology International (DI)」誌に、網膜症は「DI」誌に、腎症については「JDI」誌に報告した。歯周病に関しては「糖尿病」誌に受理されている。食事療法 WG と運動療法 WG は連携して、また、神経障害

WG もベースラインデータの論文化をすすめている。

追跡データに関しては、大血管 WG は全追跡期間中のイベント判定を完了し、論文作成、投稿のプロセスにある。それぞれの合併症の追跡データについても、イベントの確定を進めている。死因についての判定がほぼ終了し、死亡率、死因別死亡のリスク因子について解析し、論文化を進めている。

本研究にご協力頂いた医療機関の諸先生、医療スタッフの方々に心から御礼を申し上げます。

(2) 診療録直結型全国糖尿病データベース事業 (J-DREAMS) 合同委員会

委員長 荒木栄一

1) 委員会開催：1 回（2019 年 12 月 15 日）

2) J-DREAMS 参加施設による全体会議を 2020 年 2 月 8 日に開催した。

3) 2015 年度に始動した診療録直結型全国糖尿病データベース事業「J-DREAMS (Japan Diabetes compREhensive database project based on an Advanced electronic Medical record System)」について、2020 年 3 月末時点で 54 施設が参加し、64,080 症例登録され、目標であった 50,000 症例を達成した。

①今後も参加施設数と症例登録数の増加を目指し、2021 年 3 月末までに参加 65 施設を目標とする。

②データ入力に使用している各ベンダー (IBM, 富士通, NEC, ソフトウェアサービス, FINDEX, キヤノン) のテンプレートについては、使い勝手や継続性の向上を目指し改善に取り組んでいる。

③全国共通版テンプレートを改訂し、フレイル、サルコペニアに関する項目が入力できるように改修し、先行して 4 施設に導入中で、全参加施設のテンプレートを更新する準備を進めている。

④MSD 社との共同研究契約の成果としてベースライン論文を執筆することとなり、2021 年度中を目途に作成する予定である。

38. 分科会に関する報告

日本糖尿病合併症学会 理事長 中村二郎
日本糖尿病学会の分科会である日本糖尿病合併症学会は、第 34 回日本糖尿病合併症学会年次学術集会を、佐々木秀行会長（和歌山県立医科大学みらい医

療推進センターサテライト診療所本町)の下、第25回日本糖尿病眼学会総会と合同で2019年9月27日～28日の2日間、大阪国際会議場にて開催された。

年次学術集会は、シンポジウムが合併症学会として8題、眼学会と合同で4題、そして一般演題は例年通り全てワークショップ形式で行われた。市民公開講座も9月28日に開催された。

本学会が設けた各学会賞は以下の受賞者に贈呈され、受賞講演が行われた。

Outstanding Foreign Investigator Award :
Phillip A. Low 先生 (Mayo Clinic, Rochester, USA)

Distinguished Investigator Award : 柏木厚典先生 (草津総合病院)

Expert Investigator Award : 古家大祐先生 (金沢医科大学)

Young Investigator Award : 栗澤元晴先生 (国立国際医療研究センター研究所)

同 上 : 藤原和哉先生 (新潟大学)

同 上 : 熊代尚記先生 (東邦大学)

同 上 : 越坂理也先生 (千葉大学病院)

第35回日本糖尿病合併症学会年次学術集会は、古家大祐会長 (金沢医科大学) の下、2020年10月30、31日の2日間、日航ホテル金沢、ANA クラウンプラザホテルにて開催されることが決定している。

学会の機関誌「糖尿病合併症」は抄録号を含め3回発行された。

39. 日本糖尿病協会委員会 担当理事 稲垣暢也
今年度は委員会を開催しなかった。

〈合同委員会に関する報告〉

40. 糖尿病性腎症合同委員会 世話人 植木浩二郎
第45回糖尿病性腎症合同委員会は、2019年12月1日に開催された。糖尿病診療ガイドライン2019における食事療法に関する改訂に伴い、糖尿病治療ガイド2020-2021においてもエネルギー設定についてはこれまでの標準体重あたりではなく、目標体重あたりに記載を改めていることが報告され、参加学会から承認された。糖尿病治療ガイド2020-2021では、タンパク量の設定においても目標体重を用いているが、CKDのタンパク量設定についてはCKD診療ガイドラインにおいても標準体重が用いられており、これを目標体重に改訂するかどうかについて日本腎臓学会で検討していくことになった。

41. 膵臓移植中央調整委員会/移植関係学会合同委員会/臓器移植関連学会協議会

■膵臓移植中央調整委員会 委員長 栗田卓也
2019年10月10日に委員会を開催した。主な活動は以下の通りである。

- 1) 2019年8月31日現在の膵臓移植希望者申請書類受付は897件であった。ネットワーク登録済み待機患者数は211件、死体膵移植済み370件、生体膵移植4件、待機中死亡62件、取り消し83件であった。
- 2) 本年9月4日に、膵・膵島移植研究会が主導して実施した臨床膵島移植に係る保険適用化に向けた厚生労働省との打合せについて、概要が報告された。厚生労働省からは「先進医療の総括報告書(2020年度公表)を踏まえての検討を予定している」との回答があったことから、臨床膵島移植に係る保険適用化が実現されるよう引き続き対応を図っていくとの報告がされた。
- 3) 日本臓器移植ネットワークによる匿名加工データ提供が有償化された件について、日本移植学会の理事会にて「関連する臓器移植団体等の要望を日本移植学会が代表して、日本臓器移植ネットワークにデータ共有に係る要望書を提出する方針」が検討された、との報告があった。しかし、全臓器移植団体分のデータ提供(共有)が有償であれば、日本移植学会内での予算では対応できない可能性も高いので、現状では日本移植学会によるデータ共有の体制整備には時間を要することが想定される。次回委員会(3月)において、日本移植学会における本件の進捗状況を確認した上で、本委員会が独自に対応を進める可能性を検討することと、糖尿病学会との連携の可能性も模索することとした。
- 4) 潜在性結核の症例について、近畿ブロック適応検討委員会から問合せがあった。検討の結果、医学的適応の観点から見れば、結核の治療後であれば「適応」と判断されることから、本委員会の回答としては、「今回は適応「保留」とし、結核治療後(6ヶ月後)に再申請する」とした。合わせて、適応検討委員会の判定にかかる時間が、地域によって大きな差があることから、是正して欲しいとの意見が出た。
- 5) 「膵臓移植に関する実施要綱」全体を9年ぶりに中央調整委員会の委員が分担して改訂した。各執筆担当者から提出された改訂案を提示し、メール審議にて校正を進めた。改訂後の冊子体は日本糖尿病学会の学術評議員、移植関連学会の役員や移植実施施設に送付した。同内容は膵臓移植中央調整委員会のHP上で公開しており、今後も軽微な改訂箇所があれば随時HPを更新していく。

■移植関係学会合同委員会

委員 稲垣暢也, 岩本安彦

今年度は, 本委員会に該当する持ち回り審議は開催されなかった。

■日本臓器移植関連学会協議会

日本糖尿病学会 世話人 岩本安彦

今年度は協議会が開催されなかった。

42. 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会

委員長 谷澤幸生

1) 委員会開催: 2回 (2019年5月23日, 11月22日)

2) 日本医療情報学会側の委員に以下交代があった (●が交代者, 50音順・敬称略)

●大江 和彦, ●大原 信, 木村 通男,

↓ ↓ ↓

●池田 和之, ●石田 博, 木村 通男,

●合地 明, 中島 直樹, ●松村 泰志

↓ ↓ ↓

●武田 理宏, 中島 直樹, ●脇 嘉代

3) 以下, 日本医療情報学会との共同企画を開催した。

①第62回年次学術集会: 合同シンポジウム「スマホを活用した糖尿病療養指導の最前線—PHR (Personal Health Record) の介入効果—」(2019年5月23日)

②第39回医療情報学連合大会: 共同企画「糖尿病・慢性腎臓病の情報学」(日本医療情報学会・日本糖尿病学会・日本腎臓学会) (2019年11月22日)

4) 以下, 日本医療情報学会との共同企画を予定している。

①第63回年次学術集会: 合同シンポジウム「糖尿病に関する遠隔医療の展開」

5) 本合同委員会より派生した「6臨床学会拡大会議 (日本糖尿病学会/日本高血圧学会/日本動脈硬化学会/日本腎臓学会/日本臨床検査医学会+日本医療情報学会)」について

①今年度は拡大会議を開催しなかった。

②項目セットの商用利用および本拡大会議の継続運営の方法について昨年度より引き続き検討を行っている。

43. 糖尿病と癌に関する合同委員会

代表 植木浩二郎

1) 今年度は委員会を開催しなかった。

2) がん主治医と糖尿病専門医を対象に実施するWebアンケート調査「がん治療中の糖尿病管理

に関する調査」について

①調査内容について本学会学術調査研究・教育委員会および学術調査研究等倫理審査委員会より承認を得た。

②日本癌治療学会からの協力も得られ, がん主治医 (日本癌治療学会会員)/糖尿病専門医用についてそれぞれ [2019年10月1日-31日] の回答期間でアンケートを実施した (本学会では「MyPage」アンケートを使用)。

③調査結果について, これより解析作業に着手する。

④今後, 本合同委員会に日本癌治療学会からも委員就任を頂き, 3学会での合同委員会とすることも検討する。

44. 日本糖尿病理学療法学会と日本糖尿病学会との実務担当者会議

代表 植木浩二郎

2020年2月24日に実務者会議の開催を予定していたが, 新型コロナウイルス感染症の影響により, 日本糖尿病理学療法学会ではこの時期の会議開催を禁止する通達があり, 直前で中止となった。

45. 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会

代表 荒木栄一

2019年5月25日(土)に第6回肝臓と糖尿病・代謝研究会が仙台にて開催された(第62回年次学術集会と同時開催, 会長: 山田祐一郎(日本糖尿病学会), 事務局担当: 日本糖尿病学会)。プログラムとして, シンポジウム2セッション(計12演題), ランチョンセミナー(1演題), YIA受賞口演(4演題), 一般口演(18演題), 一般ポスター(13演題)が行われた。また, 肝臓学会と糖尿病学会の連携を基盤とした研究「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」についても経過報告が行われた。

次回, 第7回研究会(2020年7月18日(土))会場: 奈良春日野国際フォーラムで開催予定(会長: 吉治仁志(日本肝臓学会), 事務局担当: 日本肝臓学会)に関する合同委員会が2020年2月21日に開催された。第6回研究会の開催報告と第7回研究会のHP開設, 演題募集に関する周知, 共催状況などについての報告と演題募集期間等について検討が行われた。その他, AMED研究課題「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」の報告がなされた。第8回研究会会長の戸邊一之先生から第8回は2021年5月22日(土)に金沢市となる旨の報告があった(第64回年次学術集会と同時開催, 会長: 戸邊一之(日本糖尿病学会), 事務局担当: 日本糖尿病学会)。

AMED研究課題「糖尿病患者における肝細胞癌発

生の実態把握とその分子機構」の進捗状況は以下の通りである。

日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同の疫学研究「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」は、AMED 研究費を得て、2017 年 1 月より調査を開始した。全国 333 の肝臓学会・糖尿病学会両学会の教育認定施設に対して、調査参加の呼びかけを行い、計 276 件の登録を得た。欠損値等を除いた 246 例について解析を行い、厚労研究岡上班の糖尿病コホート 3,358 例を対照に糖尿病外来における肝発癌危険因子の同定を行った。結果 FIB-4 index が高危険群の囲い込みに有用である事が判明した。この結果は既に学会等で発表されており、現在論文投稿中である。また、データクリーニングが完了した暁にはワーキンググループメンバーへのデータセット提供を行う予定である。

46. 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会 代表 荒木栄一

昨年度に引続き、本年度も委員会は開催されていない。なお、妊娠糖尿病に対するインスリンの適応外使用について本学会の糖尿病の保険診療に関する検討委員会から医学会経由で厚生労働省へ申請が行われた。

47. 高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会 代表 稲垣暢也

- 1) 日本糖尿病学会委員：池上博司，鈴木亮，山内敏正，山田祐一郎，綿田裕孝
- 2) 委員会開催状況：2 回（2019 年 11 月 24 日，2020 年 2 月 2 日）
- 3) 「高齢者糖尿病治療ガイド」を来年 5 月刊行予定で 2020 年 3 月より改訂作業に着手した。「高齢者糖尿病の診療ガイドライン」策定改訂においては、「糖尿病診療ガイドライン」の次版改訂と同時期改訂を目指していたが、糖尿病診療ガイドラインの改訂時期が 2024 年に、改訂サイクルが 3 年から 5 年に変更されたため、それに合わせると改訂期間が 7 年と長すぎることから、改訂時期は予定通り 2022 年刊行で準備を進める方針とする。なお、今改訂版から両書籍ともに執筆担当者を各章ごとに主担当・副担当を置き、主担当は執筆、副担当は査読を担う形で、両学会の委員が相互に担当することとした。

48. 日本循環器学会との合同委員会 代表委員 荒木栄一

- 1) 日本糖尿病学会委員：稲垣暢也，植木浩二郎
- 2) Web 会議を 3 回（2019 年 5 月 13 日，7 月 31 日，8 月 7 日）開催した。
- 3) 2016 年 11 月に日本循環器学会からの連携協力の提案を受け、これまで Web 会議や第 62 回年次学術集会（5 月・仙台）では合同シンポジウムを開催するなど、協議を重ね作成した「糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメント」を 2020 年 3 月 13 日に両学会ホームページに公開し、書籍も刊行した。
- 4) 「糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメント」の英語版発行を予定しており英訳の準備を進めている。

〈その他の報告〉

49. 演題登録時の倫理審査についての検討委員会 担当理事 植木浩二郎

今年度は委員会を開催しなかった。

- 1) 第 62 回年次学術集会終了をもって、第 62 回会長校の委員 3 名が退任した。第 65 回会長と委員 2 名の就任により、下記メンバーにて 2019 年度の委員会を発足した。

2019 年度委員 植木浩二郎，池上博司，山内敏正，鈴木亮，前川聡，久米真司，森野勝太郎，戸邊一之，藤坂志帆，八木邦公，小川渉，坂口一彦，廣田勇士
--

- 2) 2019 年度は地方会における移行措置の適用が承認されたので、支部長ならびに地方会会長に運用に係る周知を行った。演題登録画面上には倫理講習動画を掲載し、第 62 回年次学術集会における仕様を取り入れ演題登録システムを整備した。
- 3) 5 月定例理事会にて承認された研究カテゴリー分類のためのフローチャートやチェックリストをもとに、委員間でもメール審議等を重ね、本学会における方針を反映させた上で第 63 回年次学術集会の演題募集を 2019 年 10 月 15 日～開始した。
- 4) 昨年度同様、HP 上に質問フォームを設け申請者からの問い合わせに対応すべくタスクフォースを組み輪番制で回答を実施した。
- 5) 日本医学会連合から各加盟学会あてに「『研究発表に当たっての共通倫理ガイドライン』の修正版」に係る意見伺いがあったので、本委員会にて素案をまとめた。全理事による承認を踏まえて、先方に学会としての意見書を提出し回答した。

3. 「糖尿病学の進歩」開催について 第 56 回「糖尿病学の進歩」

会 期 2022年2月25日(金)～2月26日(土)(予定)

会 場 松山市(ひめぎんホール等)(予定)

世話人 大澤春彦(愛媛大学大学院医学系研究科分子機能領域 糖尿病内科学講座)

※第57回「糖尿病学の進歩」の開催支部が関東甲信越支部に決定した。

4. 2019年度収支決算に関する件

定時社員総会で審議の上、2019年度収支決算書が承認可決された(本号 p47～p72)。

5. 2021年度事業計画に関する件

定時社員総会で審議の上、2021年度事業計画が承認可決された(本号 p73～p74)。

6. 名誉会員の推薦に関する件

理事会が推薦した渥美義仁会員、貴田岡正史会員、難波光義会員、花房俊昭会員および羽田勝計会員の5名が定時社員総会において承認された。

7. 第66回学術集會会長の選任に関する件

学術評議員会にて投票により第66回会長に西尾善彦会員が選出され、定時社員総会において承認された。

8. 第64回年次学術集會に関する件

2021年5月20・21・22日の3日間、石川県立音楽堂ほかにおいて開催の予定である。

9. 理事および監事の承認に関する件

各支部から推薦された18名の理事候補者および理事会推薦の2名の理事候補者、ならびに学術評議員会から推薦された2名の監事候補者の就任が定時社員総会において承認された。

1. 理 事

北海道支部	吉岡 成人	NTT 東日本札幌病院
東北支部	片桐 秀樹	東北大学大学院
関東甲信越支部	植木浩二郎	国立国際医療研究センター
	島田 朗	埼玉医科大学
	寺内 康夫	横浜市立大学大学院
	馬場園哲也	東京女子医科大学糖尿病センター
中部支部	山内 敏正	東京大学大学院
	綿田 裕孝	順天堂大学大学院
近畿支部	戸邊 一之	富山大学
	中村 二郎	愛知医科大学
	稲垣 暢也	京都大学大学院
	繪本 正憲	大阪市立大学大学院
	小川 涉	神戸大学大学院
	下村伊一郎	大阪大学大学院

中国・四国支部	金藤 秀明	川崎医科大学
	谷澤 幸生	山口大学大学院
九州支部	荒木 栄一	熊本大学大学院
	西尾 善彦	鹿児島大学大学院
理事会推薦	門脇 孝	虎の門病院
	佐藤 麻子	東京女子医科大学

以上 20 名

2. 監 事

山田祐一郎	関西電力病院
西村 理明	東京慈恵会医科大学

以上 2 名

10. 各種委員会委員の交代等に関する件

任期満了に伴い下記委員会の委員が交代することとなった。

1. 英文誌 Diabetology International 編集委員会

■：2020年度選出(任期：2020年6月—2024年5月)再任含む

※：2020年度選出(任期：2020年6月—2022年5月)2018年度選出委員支部異動による後任

無：2018年度選出(任期：2018年5月—2022年5月)

編集委員長	羽田 勝計	旭川医科大学 名誉教授・客員教授(任期規定なし)
北海道支部	斎藤 重幸	札幌医科大学保健医療学部
東北支部	■鳥袋 充生	福島県立医科大学
	※石垣 泰	岩手医科大学医学部
関東甲信越支部	■佐藤 博亮	順天堂大学医学部
	■島田 朗	埼玉医科大学
	■西村 理明	東京慈恵会医科大学
	石原 寿光	日本大学医学部
	竹本 稔	国際医療福祉大学医学部
	弘世 貴久	東邦大学医学部
中部支部	■戸邊 一之	富山大学医学部
	篁 俊成	金沢大学大学院医学系研究科
近畿支部	■河盛 段	大阪大学大学院医学系研究科
	■古田 浩人	和歌山県立医科大学
	細岡 哲也	神戸大学大学院医学系研究科
	田中 大祐	京都大学大学院医学研究科
中国・四国支部	■松久 宗英	徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター
	和田 淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
九州支部	■安西 慶三	佐賀大学医学部
	田尻 祐司	久留米大学医学部内科学講座
	前田 士郎	琉球大学大学院医学研究科

Assistant Editor (2018年5月—編集委員長の交代に伴い選出)

近畿支部	藤田 征弘	滋賀医科大学
近畿支部	森野勝太郎	滋賀医科大学
中国・四国支部	金崎 啓造	島根大学

2. 腎臓移植地域適応検討委員会 (**ブロック代表者) 2020年6月

北海道ブロック

斎藤 重幸**	札幌医科大学保健医療学部
渥美 達也	北海道大学大学院医学研究科 内科系内科学講座
西尾 妙織	北海道大学病院 第二内科
吉田 英昭	JR 札幌病院 腎臓内科

東北ブロック

片桐 秀樹**	東北大学医学部附属病院 糖尿病代謝科
島袋 充生	福島県立医科大学 糖尿病・内分泌・代謝内科学講座
宮崎真理子	東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科
田熊 淑男	仙台社会保険病院 腎センター

関東甲信越ブロック

島田 朗**	埼玉医科大学 内分泌・糖尿病内科
西村 理明	東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科
成田 一衛	新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎・膠原病内科
酒井 謙	東邦大学医療センター大森病院 腎臓学教室

中部ブロック

中島英太郎**	中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科
佐々木洋光	春日井市民病院 内科
湯澤由紀夫	藤田医科大学医学部 腎臓内科
両角 國男	医療法人衆済会増子記念病院

近畿ブロック

今川 彰久**	大阪医科大学内科学 I
山崎 真裕	京都府立医科大学
中西 健	兵庫医科大学 総合内科学
猪阪 善隆	大阪大学大学院医学系研究科 老年・腎臓内科学 腎臓内科

中国・四国ブロック

谷澤 幸生**	山口大学大学院医学系研究科 病態制御内科学分野
松久 宗英	徳島大学 糖尿病臨床・研究開発センター
和田 淳	岡山大学大学院医薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学
柏原 直樹	川崎医科大学 腎臓・高血圧内科

九州ブロック

安西 慶三**	佐賀大学医学部 内科学講座
小林 邦久	福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科
中野 敏昭	九州大学院腎疾患治療部
豊田麻理子	熊本赤十字病院 総合内科

11. 2020年度選挙管理委員会委員承認について

細則第44条により、下記の様に承認された。

北海道支部	三木 隆幸	王子総合病院
東北支部	檜尾 好徳	仙台市立病院
関東甲信越支部	駒津 光久	信州大学医学部
中部支部	榊原 文彦	住吉町クリニック
近畿支部	豊田 長興	関西医科大学
中国・四国支部	村尾 孝児	香川大学医学部
九州支部	本島 寛之	熊本大学病院
会長経験者	山田祐一郎	関西電力病院

12. 「糖尿病学の進歩」運営委員会委員について

細則第48条④および「糖尿病学の進歩」運営委員会規定により、下記の様に決定された。

第54回「糖尿病学の進歩」世話人	古家 大祐
第55回「糖尿病学の進歩」世話人	斎藤 重幸
第56回「糖尿病学の進歩」世話人	大澤 春彦
第63回年次学術集会会長	前川 聡
第64回年次学術集会会長	戸邊 一之
学術担当常務理事	荒木 栄一
庶務担当常務理事	綿田 裕孝
会計担当常務理事	中村 二郎

13. 学会後援について

申し込みのあった5件を後援することとした。

- 第37回糖尿病 Up・Date 賢鳥セミナー
2020年8月29日～30日
- 第32回日本糖尿病性腎症研究会
2020年12月5日～6日
- 第32回分子糖尿病学シンポジウム
2020年12月12日
- 第12回「より良い特定健診・保健指導のためのスキルアップ講座」生活習慣病改善講習会
2021年2月14日/2月20日

5. 第26回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会
2021年6月20日

14. その他

令和2年6月27日付け会員への報告文書を、学会HPの会員向けページに掲載した。

以上 文責 庶務担当常務理事 植木浩二郎